

今話題の白い仔イルカ「しろっティー」

今年に入り、ドルフィンスイマーたちの間で話題になっているイルカがいます。個体識別番号#436、しろっティーという愛称で呼ばれているオスのミナミハンドウイルカです(図1)。その名の通り、体色が真っ白で、船上から観察していてもひととき目立つ姿をしています。

#436・しろっティーは、#19・スポッティーの子どもで、昨年11月17日に新生児として初めて確認されました。母親の#19は、10月2日時点では新生児を連れていなかったため、#436はこの間に誕生したと推測されます。観察初期の体色は薄い灰色で、現在のように白くはありませんでした。その後、時間の経過とともに白色味を帯びてきたようです。

白い個体と聞くと「アルビノ」を想像される方もいるかもしれませんが、アルビノの場合は目の色素も抜けて、目が赤色やピンク色に見ることがあります。この個体の目は黒色であることから、突然変異などにより色素が減少し、表皮が白化した「白変種」であると考えられます。

小笠原では、これまでも白いミナミハンドウイルカの子どもが確認されてきましたが(イルカ通信No.64、96)、当時観察された個体たちは、その後の生存が確認できていません。#436もまだ生後1年未満であり、親離れまでには少なくとも2年はかかると考えられます。育児経験豊富なベテラン母イルカのもと、無事に成長してくれるのを願うばかりです。

また、この親子に限らず、これからの季節はミナミハンドウイルカの出産盛期にあたります。小さな子どもを連れてくる親子のイルカに出会った際は、いつも以上に配慮いただき、温かく見守っていただけますようお願いいたします。



図1. #19・スポッティーとその子どもの#436・しろっティー

ザトウクジラ定点目視観測結果報告～2025/26シーズン～

2025年12月から2026年5月にかけて実施した、父島・ウェザーステーション展望台からのザトウクジラ定点目視観測の結果をご報告します。12月前半の平均発見頭数は1頭に満たず、12月後半も平均2頭程度にとどまりましたが、1月以降は順調に増加し、2月前半に今シーズンのピークを迎えました(平均発見頭数: 約27頭)。2月後半も2月前半と同程度の値を維持し、3月中も平均20頭以上を記録するなど、ピーク後も急激に減少することなく、シーズン中盤が過ぎていきました。4月前半には平均12頭程度とピーク時の半数以下に減少し、その後も発見頭数は徐々に少なくなっていきました。5月は、観測を実施した17日のうち9日でザトウクジラが確認され、最終確認日は5月23日でした。今シーズンは、3月前半までは昨シーズンと同様に、一昨シーズンよりも発見頭数が少ない傾向にありました。一方で、3月後半以降は過去2シーズンよりも多くのクジラが観測されるシーズンとなりました。

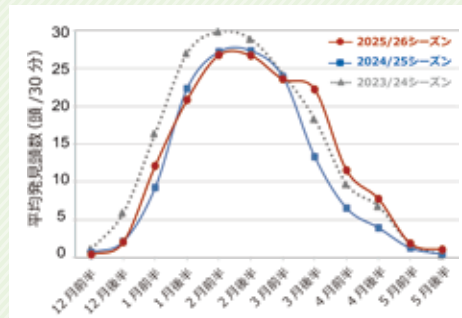


図2. 定点目視観測におけるザトウクジラの平均発見頭数の半月毎の推移